

薬物乱用が止まらない。特に、俳優・中村雅俊さん(58)の長男(31)も逮捕(14日に起訴猶予)された大麻汚染は広がりを見せている。「たばこより無害」と信じる人もいるが、待つてほしい。大麻は覚せい剤にもつながら「薬物連鎖の玄関」なのだ。【根本太一】

「たばこより無害」の大きな誤り

「誰かに追われている」。川崎市の岡崎重人さん(28)が身の危険を感じたのは、21歳の秋だった。友人のアパートでコカインを吸った帰り道。自宅に戻ってトイレへ隠れるように駆け込んだ。数時間たっても「襲われるかもしれない」恐怖は消えず、一人おびえて窓の外をうかがった。最初は大麻だった。以前、鉄製の筆箱に隠していた大麻を母親に見つかったことがある。「ハーブ」と言い繕ったつもりが、適当に名を挙げた「買った店」まで母は確かめに行き、うそが知れた。「絶

対にやめる」という言葉だけは、信じてもらえた。今度は違う。知識は持っていたけれど、実際に体験した妄想・幻覚は衝撃だった。「二度と手を出さない」。そう約束し母は安堵していたが、心の中で舌打ちした。「イカれた原因はコカイン。大麻は悪くないんだよ」

「9月ごろになると大きく育って、収穫できるんだ」。もう金は必要ない。どっさりアパートに持ち帰り、大麻と酒に酔える。たまには人にも売って生活費も稼ぎ出す。来年も、春になればまた芽が生

えらだろう。大麻でも、コカインと同様、神経を侵されるとは思っていなかった。23歳のある日、ふと背後に人の気配がした。「誰かに追われている」

麻を吸った。「パツと楽しくなって。また『いきたい』と思ってる」。月に1回のペー

それでも大麻、吸い

スが2回、週1回になった。外国人の密売人から買うと1ヶ月あたり5000円。高純度で「効く」物は1万円。アルバイト代では追いつかず万引き、恐喝、消費者金融からも借金した。予備校を経て入った大学も、薬物のせい、意欲がうせて中退した。

新潟県中越地方の小西憲さん(61)と妻美代子さん(56)は、小さな駅舎の片隅で長男(32)と向かいあっていた。02年の2月の夜、2杯を超える雪が積もっている。「家には入れないよ」。福島県のリハビリ施設「髯梯タルク」から逃げ出した長男に、施設に戻るよう説得を続けた。

「おれ死ぬよ」。自殺をほのめかされても、首を縦には振らなかつた。最終電車が出た後、長男に使い捨てカイロを手渡し、置き去りにした。「突き放さなければ、共倒れになってしまふ」。憲さんの信念は固かった。

「化学合成の麻薬と違って大麻はナチュラル(天然)で安全」。いったんは「薬物から逃れる」と宣言し北海道で1人暮らしを始めたものの、大麻をやめる気は毛頭なかつた。現地で就いた警備員の職は、勤務中の吸引が知れて解雇された。仕事の合間に、大麻の自生場所を見つけていた。

異変を知ったのは99年ごろ。東京都内の専門学校を中退し、うつ病と言うので通院

大麻事犯の検挙件数推移 ※警察庁調べ



角界にも大麻汚染が広がる。13日の元十両・若麒麟の鈴木真一被告(25)

月に1回が2回、やがて週1回に誰かに追われている……!

特集ワイド

角界にも大麻汚染が広がる。13日の初公判で大麻所持を認めたと元十両・若麒麟の鈴川真一被告(25) 佐々木順一撮影



美代子さんは自分を賣めた。公立保育園の仕事を休んで病院に見舞い、万引きが分れば店で頭を下げた。自殺防止に家の包丁も隠した。家族全員が疲れ切っていた。そんな時、ダルクの存在を知った。依存症者が集まる民間リハビリ施設が、「ダルク」(Drug Addiction Rehabilitation Center)。薬物を断ち切れずおちていく人、立ち直る人を共同生活で間近に見て、自分の道を選択する。全国に約50カ所あり、仲間で支え合いながら社会復帰を目指す。

警察に長男の「保護」を依頼した。狭い集落をパトカーの赤色灯が照らした時には、涙は枯れていた。

政府が昨年8月にまとめた第3次薬物乱用防止5カ年戦略によると、覚せい剤や合成麻薬、アヘン、大麻の検挙人数(07年)は1万5175人。覚せい剤が8割を占めるものの、大麻の2375人は10年前の約2倍に増加した。20代の乱用が顕著という。若者はなぜ薬物に走るのか。

「インターネットで手に入りやすくなった。目標や夢を持ちにくい社会で、今が楽しければいい風潮が要因」と推測するのは、埼玉県立精神医療センター副院長の成瀬暢也さん。「ださいイメーシのシンナーとは違ってファッション性もある」

「誰かに追われている」
「おれ死ぬよ」。自殺をはのめかされても、首を縦には振らなかつた。最終電車が出た後、長男に使い捨てカイロを手渡し、置き去りにした。「突き放さなければ、共倒れになってしまう」。憲さんの信念は固かった。

「誰かに追われている」
「おれ死ぬよ」。自殺をはのめかされても、首を縦には振らなかつた。最終電車が出た後、長男に使い捨てカイロを手渡し、置き去りにした。「突き放さなければ、共倒れになってしまう」。憲さんの信念は固かった。

麻、吸いますか？

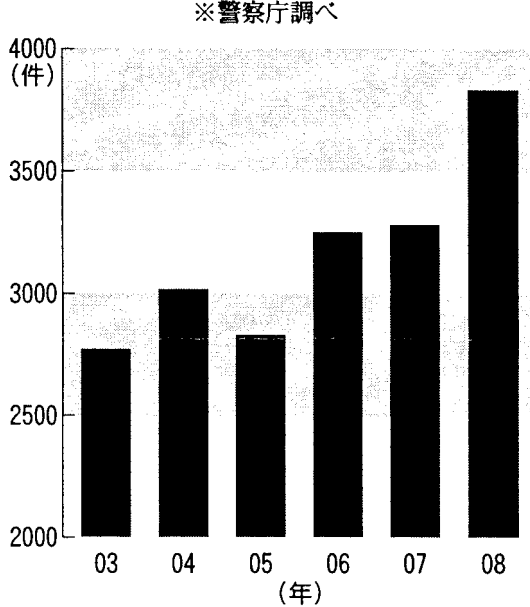
新潟県中越地方の小西憲さん(61)と妻美代子さん(56)は、小さな駅舎の片隅で長男(32)と向かいあっていた。02年の2月の夜、2軒を超える雪が積もっている。「家には入れないよ」。福島県のリハビリ施設「髻ダルク」から逃げ出した長男に、施設に戻るよう説得を続けた。

「愛情が足りなかつた」。

「誰かに追われている」
「おれ死ぬよ」。自殺をはのめかされても、首を縦には振らなかつた。最終電車が出た後、長男に使い捨てカイロを手渡し、置き去りにした。「突き放さなければ、共倒れになってしまう」。憲さんの信念は固かった。

「誰かに追われている」
「おれ死ぬよ」。自殺をはのめかされても、首を縦には振らなかつた。最終電車が出た後、長男に使い捨てカイロを手渡し、置き去りにした。「突き放さなければ、共倒れになってしまう」。憲さんの信念は固かった。

大麻事犯の検挙件数推移 ※警察庁調べ



異変を知ったのは99年ごろ。東京都内の専門学校を中退し、うつ病と言うので通院

「誰かに追われている」
「おれ死ぬよ」。自殺をはのめかされても、首を縦には振らなかつた。最終電車が出た後、長男に使い捨てカイロを手渡し、置き去りにした。「突き放さなければ、共倒れになってしまう」。憲さんの信念は固かった。